

5月11 - 15日週のドル円レビュー

May 18, 2009

相対的に利益確定の円買い優勢

High : 98.83 円 Low : 94.73 円

Close : 95.20 円

米小売売上高などの結果を受けて实体经济への懸念が高まったほか、株価も調整売りが優勢に。また、商品市況や欧米長期金利（米国債格下げ懸念）でも利益確定売りなどが目立った。ドル円は98円台から94.73円まで下落。95円割れを示現した。

5/11（月）97.50 円

ドル円は欧州時間にアジア株や欧州株の下落を受けて続落となり、97円半ばまで下げ。一旦98円台を回復するも、クロス円の売りが上値を抑制した。

5/12（火）96.48 円

ドル円はユーロ円の買いに引っ張られる形で、97.84円まで上昇した。しかし、98円手前では実需の売りが散見されたため反落。さらに、米株がマイナス圏で寄り付くと、ドル円も嫌気されて96.11円まで下落した。

5/13（水）95.32 円

朝方はFTの記事（米国がAAAの格付けを失うリスク）を背景に95.97円まで下落。NY時間も株の続落や、予想を下回った米小売売上高を受けての景気後退懸念で、95.14円まで下押しした。

5/14（木）95.82 円

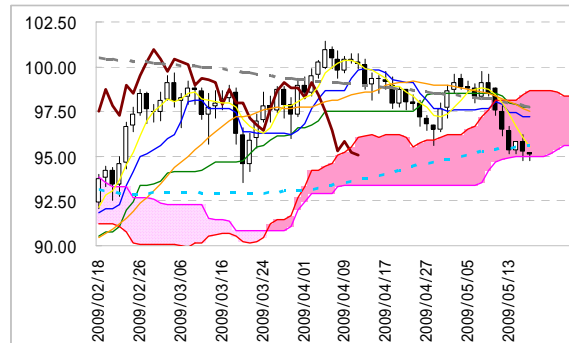
一部金融機関の資金繰り悪化の噂で、ドル円はアジアタイムのショートカバーから一転して95.10円まで下落。しかし、米国時間には米株が小幅ながらも反発したことで今週上昇が続いていた円が反落し、ドル円は96円手前まで反発した。

5/15（金）95.20 円

ドル円は95.00円のOPに絡んだストップロスを狙った売りで94.78円まで下落、約2ヶ月ぶりの安値を示現した。本邦機関投資家によるレパトリも観測された。米国時間は一連の米マクロ指標が予想を上回ったことから95.57円までショートカバーが入るも、再び米株が下落したことでセンチメントが悪化。ドル円も95円を割れる場面（安値94.73円）が見られた。

	High	Low
5/11（月）	98.83 円	97.26 円
5/12（火）	97.84 円	96.11 円
5/13（水）	96.70 円	95.14 円
5/14（木）	95.87 円	95.10 円
5/15（金）	96.20 円	94.73 円

ドル円の推移



テクニカル短期・中期ポイント

97.24（日足一目均衡表・転換線）

95.62（90日移動平均線）

= 先週末のNYクローズ 95.20 円 =

93.55（3月19日安値）

米国の重要指標結果

5/13（水）〔結果〕（前回）

4月小売売上高 [-0.4%] (-1.3%)

4月小売売上高（除自動車）[-0.5%] (-1.2%)

5/14（木）〔結果〕（前回）

新規失業保険申請件数 [63.7万件] (60.5万件)

5/15（金）〔結果〕（前回）

4月消費者物価指数 [±0.0%] (-0.1%)

4月消費者物価指数・コア [+0.3%] (+0.2%)

5月NY連銀製造業景況指数 [-4.55] (-14.65)

4月鉱工業生産 [-0.5%] (-1.7%)

5月ミシガン大学消費者信頼感指数・速報値 [67.9] (65.1)

アウトルック ダイジェスト版

レンジ：93.00 - 97.00 円

今週は米国で重要指標が少なく、株価の動きに反応する展開と見ている。ドル円はクロス円の下落圧力に連れて上値の重い展開が予想されるが、強い方向感が出ているわけでもなく、レンジの上限からやや下限にシフトした程度となりそうだ。また、本邦では1-3月期GDPが発表されるが、市場の反応は限定的だろう。ユーロ円も基本的には上値が抑制される見通しで、ドル円の上値の重石となりそうだ。